

旧新井村

泥流に呑み込まれた幻の村

■■■大地の活動■■■

1980(昭和55)年、長野原町与喜屋地区のグラウンド整備工事中に供養塔や石臼が見つかったもので埋没当時は新井村とっていました。1783(天明3)年8月5日、浅間山の大噴火により発生した鎌原土石なだれは吾妻川に流入し泥流となりました。泥流は長野原手前で熊川を逆流し、旧新井村北側に位置する与喜屋の養蚕神社境内まで達して桜の木を埋めたとされています(天明桜)。旧村は隣接していた坪井村と共に全村(戸数6軒)泥流の下に埋没し、六軒潰れ、三人死と手記に記されています。



旧新井村の解説板



「逆水寛浣信女」と戒名の刻まれた墓標